

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142J022	日本東洋美術史 (Japanese and Asian Art History)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部			氏名 田中 修二 E-mail tnkshj@oita-u.ac.jp 内線 7596											
授業の概要	日本美術を中心に、それとの関係をふまえるなどして朝鮮半島や中国、インドなどの美術も含め、その歴史的な流れを概観する。合わせて、大分の美術の歴史についても触れ、地域と芸術文化の結びつき方を考える機会とする。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	日本を中心に東洋諸地域の美術の歴史的な流れを説明できる																
目標2	代表的な美術作品や地域的な文化的特性等を説明できる																
目標3	大分の芸術文化の特質について伝えることができる																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	はじめに 「東洋」の広がりとその歴史																
2	先史時代と東洋における文明の始まり																
3	縄文・弥生時代																
4	古墳時代																
5	飛鳥・奈良時代																
6	仏像のかたちと地域性																
7	平安時代																
8	鎌倉時代																
9	中国の絵画とその理論																
10	南北朝・室町時代																
11	安土桃山時代 西洋との接触																
12	江戸時代																
13	東洋の「近代」																
14	明治期																
15	大正～昭和期																
ラ ア ー ク ニ テ ン イ グ レ プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	グループでの話し合い。事前に調べてきたことについての口頭発表。展覧会見学・街歩き等の教室外での活動。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	配付資料、参考文献等をもとに必要に応じて予習する(15h)。															
	事後 学修	授業で学んだ事柄について、各自でさらに調査・考察を進め、知識を深めていく(15h)。															
教科書	授業前もしくは授業の際に資料を配布する。																
参考書	授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	口頭発表・小レポート等	30%															
	期末試験、またはレポート	70%															
注意事項	授業ではある作品についての「ディスクリプション」(作品の形や構図・色彩などについての文章による詳細な記述)や、特定の作家や作品について事前に調べた上での発表などを行ってもらうことがある。休日等に美術館見学などを実施することがある。																
備考																	
リンク	URL																